

臨床福祉専門学校
言語聴覚療法学科 平成27年度 第二回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成28年2月22日（月）13：00～14：30

場所：臨床福祉専門学校 201 教室

出席委員及び所属

田村 満子（NPO法人 こども発達療育研究所理事長）

園田 尚美（株式会社 言語生活サポートセンター 代表取締役）

内藤 明（言語聴覚療法学科 学科長）

馬目 雪枝（言語聴覚療法学科 副学科長）

樋口 豊朗（事務局 教務課 主任）

1. 学科長挨拶（第1回教育課程編成委員会の振り返り）

内藤：STとして求められる人物像の明確化・仕事の理解を学生に教育する事が必須。その為には、入学後早期に現場実習の機会を設けて、学生にSTが働いている現場を見学させる必要性がある。委員として現在のSTに求める事は？

田村：現場でどのような事が求められているか、小児の分野としてその領域に踏み込んで来てもらいたい。
現場のSTが仕事をしている様子が見れるカリキュラムがあると良い。

園田：いざ実践（治療）となると患者だけに目を向けてしまう傾向がある。そうではなく、患者の家族（背景）にも視点を向ける必要がある。
（園田委員の言語生活サポートセンターでは実際に「家族会」を設けて家族がどう感じているか、相談の場を設ける事を行っている。）
STにも患者＝家族という幅広い視点を持ってもらいたい。

2. 第二回教育課程編成委員会の趣旨

内藤：2年課程の過密な本校のカリキュラムの中で挫折しないように、モチベーションを上げる為に職業の理解をさせる事が必要である。
よって、上記の委員からの要望も踏まえて、今回の第二回教育課程編成委員会では実際に現場見学を行う際の各論部分について、委員にご意見を頂くとともに具体的なビジョンを構築していきたい。

3. 現場見学の実施方法について（各論）

馬目：入学早期の現場見学は職業の理解をさせる・そのモチベーションを維持させるという点で本校のST学科でも前向きに検討したい案件であった。

本校のカリキュラムでは2年次の「臨床実習」以前に現場見学を見る機会がないので、早期に行えるのであれば平成28年度の時間割に組み込んでいきたい。

- ・小児分野の現場見学
- ・成人分野の現場見学

上記2つ以外に園田委員がお話しされていた「家族との関わり方」について家族の思い・背景を理解する為に実際に患者の家族の方に学校にゲストスピーカーとして出向頂き講義をお願いしたい。

⇒上記の件について委員了承

内藤：本校では平成28年度は新生が50名～60名として予測されているが、実際の両委員の施設の受け入れの際のキャパシティの問題は？

田村「こども発達センター」

：平日なら問題なし、午前であれば9：30～12：15

施設が2ヶ所あるので、半数（例25名）を1日で5グループに分けての見学が可能。プログラムがしっかりしていればこなせる。

園田「言語生活サポートセンター」/個別訓練・グループ訓練・家族相談室

：午前の部と午後の部に分かれる。施設として1回につき3名程度現場の先生と話す機会も有。

馬目：学生に小児分野・成人分野の希望を聴取して、振り分けたい

人数が多いので、他の施設も受け入れが可能か検討するので1度学科に持ち帰る。

園田：せっかくなので見学だけでなく、現場にも入ってもらう事を前向きに検討したい。

内藤：「家族との関わり方」における特別講義については、実際に見学に行った後（後期）に実施したい。

まとめ

- ・ 早期の現場見学を田村委員・園田委員双方の施設において実施を行う。
人数の兼ね合いから他の施設も検討し、時間割との調整を1度学科で精査する。
- ・ 実際に見学に行く際には施設に対する学校からの謝礼金が必要。それを盛り込んだ契約書を作成して事前に締結する。
- ・ 平成28年度第1回教育課程編成委員会を7月に行い、その時点の経過報告と改善事項を検討する。

